



夏～砂や土で～

最近は、砂や土などにあまり触れたことのない子どもが増えています。砂遊びや土遊びをすると、「きたない」「服が汚れる」という声が聞かれるかもしれません。

しかし、教師も一緒に手のひらや足の裏まで使って、土や砂の感触を感じ、遊びを楽しむことで、体をまるごと使って身近な自然と触れ合う子どもたちの生き生きと活動する姿が見られることでしょう。

ここが
ポイント

活動は、個 ⇒ グループ ⇒ クラス全体

個の思いを
大切に

まずは、一人一人の「～を作つてみたい。」「～が楽しそう。」という思いを大切に、じっくり素材に浸ります。図工の造形活動と合科的に行うと、材料の収集や時数の確保もよりスムーズに行うことができます。

とにかく穴をほるぞ。

おだんごやさんを
したいな。

ケーキを作りたいな。型
に入れて作つてみよう！

裸足になっちゃ
おう！

グループで
教え合い

あれ？ 型に入れても、さらさらして
崩れちゃう。

水を入れるとい
いよ。

うまくいかないな。すぐ
にくずれちゃうよ。

コツはね……

水の量で、お団子
の固さが変わる
よ。



思いを生かして、活動を楽しんだ子どもは、次第に、友達の作っているものを参考にするなど、コツの教え合いを始めます。そして、互いに関わっていくうちに、一緒にお店屋さんを開いたり、大きな山や川、トンネルを作ったりして、活動の幅を広げていきます。



学級
みんなで

最後に、個々の遊びの経験を生かして、みんなで一つのものを作る活動を行うことで、これまでに気付いたコツが学級全体へと広がります。山づくりをきっかけに、みんなで島や町を作るなど、一つの目的に向かって協働して大きなものを作ることは、子どもの達成感や満足感にもつながります。

また、活動を始める前にみんなで計画を立てると、1年生なりに見通しをもつことができます。自分の作りたいもののを考えるなど、活動への意欲も膨らみます。

1ねん〇くみ なかよし島をつくろう

カップでまちを
作ろう。

バケツでお城を
作るよ。

お団子で、周りを
飾るよ。

川を長くして、町
をつなげたいな。

気付き！

砂遊びだけでなく、教材園などを活用して土でも遊ぶと、その比較から、性質の違いにも目を向け、気付きが広がります。

土の方がねちよね
ちょ、もちもちす
るね。粘土みたい
だな。



土だとすぐに固
められるよ。

土の方が、重ねや
すいな。



砂は、何度もペタペ
タしているとだんだ
ん固まるよ。

土と砂って、ちが
うんだな。

砂は深く掘ると、崩
れてくるよ。土は崩
れにくいね。

友達と遊ぶ楽しさ、土や砂という自然の面白さに気付くよう、教師が子どもの工夫を価値付けたり、似た活動をする子ども同士の関わりを促したりして、動中も細やかに関わることが大切です。

ここが
ポイント

事前の準備をしっかりと！

- 砂場や花壇の土の使用許可をとる。
- 作成したものを保存しておく許可をとる。
- スコップやバケツ、プリンカップ、ペットボトル、じょうろなど、子どもの必要感を大切にして持参のお願いをする。
- 子どもの洋服の着替えの持参をお願いする。
- 天気や気温をチェックする。